

受講生募集のお知らせ

震災とコミュニティ

講義概要

東日本大震災から1年あまり、この震災の経験から、私たちは何を学ぶべきなのでしょう。社会の現状を見つめて、地域コミュニティについて、考えを新しくしましょう。

- 日 時 10月6日～11月24日 毎週土曜日（11/10を除く）
合計7回 15:00～16:30
- 会 場 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」講義室
新潟駅南口 プラカ1 2階
- 対象者 市民一般
- 定 員 60人
- 受講料 7,200円
- 申込締切 9月24日（月）



講義内容

日 程	講義題目	講 義 内 容	講 師
10月6日（土）14時45分～15時まで開講式を行います。			
10月6日（土） 15時～16時30分	震災とコミュニティ：中越から東日本へ	中越地震・中越沖地震の経験は、どのように東日本大震災の被災地に引き継いでいけるのでしょうか？ 具体的なコミュニティの事例をもとに考察します。	人文社会・教育科学系（人文学部） 教授 松井克浩
10月13日（土） 15時～16時30分	震災とメディア	東日本大震災において、被災地の様子はいかに伝えられたのでしょうか。地域メディアの活動を中心に取り上げながら、震災報道について検証します。	人文社会・教育科学系（人文学部） 准教授 北村順生
10月20日（土） 15時～16時30分	震災と映像の記憶	1964年の新潟地震当時の映像を含め、様々な過去の映像記録から、新潟地域と震災との関わりの歴史を見つめ直します。	人文社会・教育科学系（人文学部） 教授 原田健一
10月27日（土） 15時～16時30分	地震被害と原子力発電所	地震と津波をきっかけとして、原子力発電所と地域社会のあり方について、総合的に捉え直します。	人文社会・教育科学系（人文学部） 教授 渡邊登
11月3日（土） 15時～16時30分	震災と地域社会～文化、宗教的観点から	インドネシアのスマトラ沖地震とジャワ島中部地震の経験を踏まえつつ、東日本大震災における岩手県沿岸部における民俗芸能の被災と復興、社会的役割を中心に、震災後の地域社会における文化と宗教の役割について比較検討します。	人文社会・教育科学系（人文学部） 教授 中村潔 岩手県立大学（総合政策学部） 准教授 見市建
11月17日（土） 15時～16時30分	被災者自身の手による情報の記録と発信の試み	東日本大震災で被災した高齢者や子どもたちが、自らの目で被災や復旧・復興の様子を記録し発信する試みについて、実際に作られた映像を見ながらその意義について検証します。	人文社会・教育科学系（人文学部） 教授 中村隆志 モバイル社会研究所 副主任研究員 本條晴一郎
11月24日（土） 15時～16時30分	震災とネット：ソーシャル・メディアが果たした役割	震災と原発事故におけるTwitterなどのソーシャル・メディアの功罪について論じます。	人文社会・教育科学系（人文学部） 助教 吉田達
11月24日（土）16時30分～16時45分まで開講式を行います。			